

# 光松八幡神社にのこる 金谷御殿の遺構

徳用光松八幡神社には、前田家との関係を示すさまざまな文化財が現在ものこっています。中には、金谷御殿から移築されたと伝わるものもあり、かつての金沢城・金谷御殿の<sup>おもかげ</sup>面影を伝えるものとして貴重なものです。

## いしとりい 石鳥居 (市指定文化財)

明治四年（1871）に金谷御殿から徳用の神社に移転されました。<sup>とむろ</sup>戸室石でつくられており、柱の刻字から、もともとは齊泰の夫人・<sup>ようひめ</sup>溶姫が金谷御殿の庭園に<sup>きしん</sup>寄進したものと考えられています。※諸説あります



## さんじゃ 三社の題額 (市指定文化財)

石鳥居に掛けられていた題額です。題字は「三社」と<sup>てんこく</sup>篆刻されています。裏面の署名より、金谷御殿に仕え、書家としても有名だった<sup>いちかわさんじ</sup>市河三胤（<sup>すいあん</sup>遂庵）が書いたものです。